

天王寺公園エントランスエリア魅力創造・管理運営事業及び
天王寺動物園ゲートエリア魅力向上事業評価委員会
議事要旨

1. 開催日時

令和7年10月6日（月）14時～17時

2. 開催場所

天王寺動物園レクチャールーム

3. 出席者

【外部有識者】4名

【事務局】大阪市（経済戦略局観光部観光課・建設局公園緑化部調整課）

4. 外部有識者の主な意見

（事業者に対する意見）

- ・一層の集客と魅力の向上をめざして、芝生広場を中核に季節感あるイベントに精力的に取り組んでおり、賑わい空間を創出している。
- ・「てんしば+」の整備は利用者のニーズをくみ取った、快適性と利便性の向上に寄与するものであり、企業努力により整備を実現させたことは高く評価できる。
- ・リニューアルした市立美術館、慶沢園をはじめとした園内施設とより一層連携を図り、文化的側面からの取組についても推し進められたい。
- ・天王寺・阿倍野エリアの回遊性向上にむけ、公園周辺の文化・観光資源との連携の継続、拡充を進められたい。
- ・評価委員から意見のあった点については、次期3年間の事業計画に反映させ、取組を進めること。
- ・事業開始から今年で10年が経過することをふまえ、改めて市と事業者の対話によりこれまでの両者の取組の課題を整理し、天王寺公園の将来像とそれに沿った方針を再構築することにより良い事業展開につなげてほしい。

（その他事業全般に対する意見）

- ・これまでの 10 年間の取組について経年変化を可視化されたい。そこから現状分析を行うことができ、PDCA を回した事業展開が期待できる。また、評価期間（3 年）ごとに計画を策定し、単年度計画に落とし込むことで、事業報告を通じて進捗の確認や、継続的な事業の追跡ができるとともに、3 年評価のバックデータとしても活用できる。
- ・回遊性については、公園内での美術館や慶沢園などの連携に加えて、ここを結節点として、通天閣など公園外の地域への派生も必要だと思う。今後 10 年間で周辺地域への回遊の誘発に取り組んでほしい。
- ・てんしばへの集客による経済効果が、周辺地域へ循環できるとなると良い。
- ・賑わいと憩いのバランスに偏りを感じる。憩いの確保にもう少し力を入れてほしい。
- ・重要なのはエントランスエリアだけではなく動物園・美術館も含めた天王寺公園全体。この事業によるこれまでの成果を踏まえ、大阪市として公園全体のあり方を再整理されたい。エントランスエリアの役割・位置づけ、憩いの場の確保はもとより天王寺公園に必要な機能とそのエリアを再構築するなど、将来のビジョンを市がリードして検討していく必要がある。
- ・以前は公園全体のあり方論を随分議論していたが、市内部の役割分担が定まってからは動物園や美術館など部分ごとにそれぞれが評価をするようになってしまった感じがある。公園全体のことを考えるセクションが必要。大阪市が改めてエントランスエリアにおいて求めたい役割を事業者に示し、それを計画に落とし込み、事業が実施できたか評価をするべき。この手順を踏んでおかないと十分な評価ができない。